

「シジュウカラの営巣(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

シジュウカラのメスは、産卵数日前から巣箱内で一晩を過ごすようになる。シジュウカラのような昼行性の野鳥は、夜間は「鳥目」になって、活動ができなくなるらしい。シジュウカラも、暗くなる前に巣箱に入る必要がある。時々間に合わない時もあり、その場合は一晩中外の枝(ねぐら)で過ごす。



巣箱で寝ているシジュウカラは、このような姿である。背中の羽毛に顔をうずめて、時々向きを変える(寝返り)以外は、朝までほとんど身動きもしない。



28日の早朝には、オスのシジュウカラが様子を見に来た。これは非常に珍しい行動で、恐らく産卵が始ま

ったかを確認しに来たのだろう。それでもメスは起きずに熟睡していた。



日の出の時刻前後、外が明るくなってくると、シジュウカラのメスは目覚める。動画で見るとよくわかるのだが、最初は体を小刻みに震わせて、徐々に覚醒状態になってゆくようだ。

親鳥が産座を離れると、産卵しているかどうか、また産卵数もわかる。しかし、全部の卵を産み終わるまでは、親鳥は昼間に抱卵をすることはまずない。そのかわり、綿毛のような巣草で卵を隠してしまうので、産卵が確認できないこともある。



この日(4月28日朝)は、起きてからわずか2分で、親鳥は巣の外に出て行き、夕方まで一回も戻ってこなかった。残念ながら、産卵の有無はまだ確認できなかった。